



高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

今月の内容

- ▶ シリーズ「北の志」
 - ・ 三笠高等学校
 - ・ 十勝野球連合チーム
- ▶ 第62回全道大会報告
- ▶ 新会長あいさつ
- ▶ 支部だより (名寄・十勝)



実習に励む生徒たち —三笠高校—

Heart to Heart 北の志
—ひたむきに頑張る君たちを応援したい—



初の4校連合チーム —足士新幕連合—

夢の実現を目指して

～食のスペシャリストを育てる～

北海道三笠高等学校長

高瀬雅朗



本年4月に開校した「北海道三笠高等学校」。道立から市立への転換は前例がない中、道立時代の歴史と伝統を継承しつつ新たな歴史の構築へと一步を踏み出しました。「家庭」の学科に属する「食物調理科」の学校であり、「調理師コース」「製菓コース」の2コースで教育を実践しています。第一期生は、男子十二名女子二十八名の計四十名、空知の生徒十三名をはじめとして、全道から生徒が来てくれました。授業が始まって四カ月、四十名の生徒が主体的に爽やかに教育活動に取り組んでいます。

開校までの経緯

南空知の主要な産炭地として開庁百三十年余の歴史を持つ三笠市。炭鉱の閉山とともに人口も減少し、最盛期には六万人以上いた人口も現在は一万人以上しかいません。高齢化も進んでおり、三笠市として

は、高校を失うことはまちの活力を失うことと考えました。普通科での存続は難しいと判断した三笠市は、「食」に特化した学校がでないかと考え、高校生レストランの取組がクローズアップされていた三重県多気町にある相可高校を数回にわたり訪れ、「食物調理科」での高校存続を決断しました。学科変更したうえで道立での存続を道に要請していましたがかなわず、市立での高校存続を決断し、平成二十二年九月の市議会議決を経て開校準備に入り、平成二十四年四月に開校するに至りました。

食のスペシャリスト

校訓は「敬愛」「創造」、食のスペシャリストの養成を目的とした市立高校です。「調理師コース」については、道の保健福祉部より調理師養成施設としての認可を受け、高校での単位修得だけで国家試験を受けずに「調理師」の資格を持



つことができます。「製菓コース」については、札幌の専修学校と提携し、二年間のスクーリングを経たのち、「製菓衛生師」の国家資格の受験をします。高校卒業時には、資格を持つことが本校の特色となっています。

主体的な第一期生

現在本校は、第一期生四十名のみの学校であり、行事や部活動などについては、生徒と教職員で立ち上げていく現状です。第一期生は、基本的な生活習慣も

確立されており、あいさつのできる生徒です。さまざまな取組にも積極的に参加し、さらには自分たちで企画、運営のできるリーダーシップを持った生徒が多い現状にあります。

部活動については、「調理同好会」「地域連携同好会」「バスケットボール同

好会」ができました。それぞれに活発に活動をしています。特に「調理同好会」においては、夏休み明けのシーフード料理コンクールへの出品を目指し、夏休みに入ってから頑張っています。

特色ある教育課程

高校を新規に卒業する生徒の中で約七割以上が進学という進路を選択している現状にあります。高校が、社会人となる最後の準備をする場所だと考えて、「食物調理科」として就職に重きを置き過ぎず、進学も視野に入れ食のスペシャリストを育成するための教育課程は如何にあるべきかを考えて教育課程を編成しました。家庭に関する科目に

ついては、各学年とも約四〇%になるようにしました。さらに、第一学年時の学校設定科目として「地域開発と食」を配置し、地域とは、食を媒介としていかに地域と連携していくかを学ぶこととしました。

地域との連携

教育活動だけでなくさまざまな積極的に地域と連携し、三笠の方々に市立高校教育を知っていただく、高校生を知っていただくことを心掛けています。これまで、三笠小学校の「地域学習」のサポート、寄宿舎のある幾春別地域の祭典のお手伝い、三笠市内で行われる行事でのボランティア活動など、さまざまな活動に第一期生は主体的に取り組んでいます。



野球連合チームでの大会出場に感謝

足寄高等学校野球部顧問

林 祐 介



第94回全国高等学校野球選手権大会北海道大会十勝支部予選に、足寄高校・士幌高校・新得高校・幕別高校の4校連合チーム「足士新幕連合」として出場させていただきました。この連合チームでの出場にあたり、本当に多くの方の応援をいただきました。この場をおかりしましてあらためましてお礼申し上げます。選手・顧問一同大きな幸せを感じております。

最後の試合を終えたあとのミーティングで、連合チームの主将である新得高校片桐祐馬君は次のように述べています。「昨年の夏が終わってから部員は自分一人に。目標を見いだせないまま野球を続けてきまし

たが、連合チームを組み、目標ができました。このチームで最後の大会に出場することができて、本当に幸せでした。」一同



目を潤ませながらこの主将の言葉に聞き入る中、いつも側で片桐君を見つめてきた新得高校野球部部長の村田祐亮教諭ははばかりず涙を流す。そのときの心境を村田教諭は後日こう述べています。「片桐君が入部したとき、新得高校野球部の選手は12人。人数は少なくとも勝利を目指すチームでした。3年生が引退すると、選手は4人。それでも練習を重ね、片桐君が2年生の春・夏の大会はなんとか新得高校として出場を果たすことができました。しかし、2年生の夏休み、野球部に残ったのは片桐君1人。それでも彼は野球がしたいと話しました。大会出場を彼に約束できない中で、試合

で勝つという目標を与えてあげられない中で練習の日々です。最後の夏もどうなるかわからない。それでも自分自身の野球力向上のためと毎日を過ごしました。日々の練習の成果を發表する場はなく、自分との戦いが続きました。そうして3年生となりましたが、春の大会は部員数不足のため出場がかなわず、最後の夏を迎えることになりました。最後の大会への出場が危ぶまれる中、連合チームでの大会参加が認められました。このとき彼には二つの感情があつたように思います。チームとして野球ができる喜びと、新しいチームでの戸惑いです。表に出さずとも、新得高校のチームとしてグラウンドに立ちたい、そんな思いも持っていたのではないかと思います。それでも彼は主将という立場を与えてもらいました。そしてチームは少しずつ成長していきました。最後の試合、彼は一つの安打

も出ませんでした。それでも彼は幸せだったと言葉にします。私は2年半、人数の減る野球部とその中でバットを振り続ける片桐君の姿を見てきました。彼にとつて高校野球がどのようなものであったかの深層のところはまだ伺い知ることのできない面があります。最後に「幸せ」という言葉を聞いたとき、2年半の彼の苦勞と頑張りが私の脳裏に一気に蘇り、涙を止められなくなりました。」片桐君は後日次のように述べています。「僕は足士新幕連合チームとして試合に出場できて本当によかったと思う。なぜなら、最高な



仲間達や監督、コーチの人たちと出会えたこと、そして何よりも大好きな野球ができたからです。試合には負けましたが、僕の高校野球生活の中で一番思い出に残る良い試合でした。この夏の一瞬の出来事は決して忘れることはありません。なぜなら、僕にとつて幸せな時間だったからです。野球をやっている本当によかったと思います。」

この連合チームは、部員数不足により大会への参加が危ぶまれた足寄高校、士幌高校、新得高校、幕別高校の4校が一つのチームを結成したものです。各校ともここ数年は部員数不足に悩み、野球部以外の部活動から選手をお借りして大会出場をすることもありました。そのような中、この夏季大会より部員数不足による連合チームでの大会参加が認可され、4校が一つのチームを結成し大会への参加を果たすことに決めました。連合チームが結成されてからの活動は、苦勞よりは多くの幸せを感じるもの

でありました。各校間の距離が遠距離であるため、4校合同で練習するための選手の移動は時間がかかるものでありましたが、その苦勞以上に人数がそろい、連携プレーの練習や実戦的な練習ができることに大きな喜びを感じておりました。そして何より、同じような状況下にあった仲間とともに力を合わせ、また切磋琢磨しながら、勝利をつかむという目標に向かうことができたことに大きな幸福を感じずにはいられませんでした。保護者の皆様には、連合チームでの活動へのご理解とたくさんのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

連合チームでの大会出場を果たし、子どもたちは一回り成長することができたのではないかと思います。困難な状況を乗り越えることと、力を合わせることの大切さ、そして多くの方に支えられ応援をいただきたながら野球ができていたこと。それを知ることができた連合チームでの活動は、これからの子どもたちの人間的な成長に大きな意味を持つものであったと感じております。

北海道高等学校PTA連合会

第62回大会(旭川・留萌大会)

道高P連の第62回大会が、6月15日(金)16日(土)の両日、旭川市で開催された。旭川市は、北海道のほぼ中央部に位置する。雄大な大雪山の下、大小130の河川が流れる四季の変化に恵まれた都市。また、日本で最北の旭山動物園が「行動展示」と呼ばれる展示方法が特徴として観光スポットとなっている。大会には、全道各地から1162名の会員の参加を得て開催された。旭川南

高校を主管とする旭川・留萌支部28単Pが一体となった運営により盛会へと導いた。

【開会式】

「雄大な大雪山 夕日に輝く黄金岬 この豊かな大地に集い 自然の恩恵に感謝し 未来への架け橋となる子供たちが 風雪に耐え 逞しく 健やかに成長することを願い エールを送りましょう」の大会メッセージのもと、2日間に行われた大会が幕を開けた。開会式で主催者を代表して挨拶に立った中島会長は、62回を数える本大会が、変わら



ず「子供たちのためにという強い思いを、これからPTA活動の糧としていただきたい」と期待を込めた。また、「昨今の価値観の多様化

は、子供たちをはじめとして、家庭や地域、教育現場、或いは社会全体に大きな変化を与えてきている中で、PTAは、この時代に、状況を正面からしっかりと据え、いかに対応し、いかに即応できるかが求められている」と呼びかけた。続いて、大会実行委員長、旭川南高校の蜂谷規彦PTA会長は、「おもてなしの心を忘れず、温かく心に残る大会にしたい。旭川・留萌の雄大な自然の中で、未来を担う子供たちのために、今、PTAとして何をなすべきかを共に考え、学び、交流しましょう」と呼びかけた。この後、単P役員、道高P連役員等を退任した410名の方々への功績者表彰並びに感謝状の贈呈が行われた。その中で長年にわたり道高P連でご尽力された榊原綾子前会長に特別感謝状が贈呈された。

めまぐるしい変化を變動の時代が続いている」と指摘し、「今、色々な面でPTA活動の真価が問われる時期であり、価値観が多様化しているからこそ、PTAとしての意識を高め、正しい情報を共有し、子供たちを守っていくという視点で活動しなければならぬ。親が学ぶことで、子供も地域と共に育つことが教育力の向上につながる」と述べた。次に道教委の緒方公教育指導監は、「次代を担う子供たちが、先見性・創造性・チャレンジ精神を持ち、ふるさとと北海道を愛し、地域の発展に主体的に貢献できる人材へと成長するためには、学校・家庭・地域が一体となった取組が必要」との認識を示し、「未来への架け橋となる子供たちが、逞しく、健やかに成長することができるよう、エールを送り続けていただきたい」と述べた。このほか、西川将人旭川市長、道高校長協会の山本伸弘会長が祝辞を述べた。

【講演】

講演では、圧倒的なスピード感とその語り口で本格古典講談に挑む、網走市



出身で講師の神田山陽氏が「明日への講談入門」と題して講演を行った。講演依頼を受けるに至った経緯から始まり、自分の生い立ち(本が好きで子供だった。小説家になったかった等)や現在の状況(東藻琴小学校の生徒として登録され特別聴講生となっている等)加えて経験談をテンポの良い語り口でおもしろ、おかしく進められた。中盤からは、西表島での「ムラタさん」との出会い、落語ブームの中、師匠二代目神田山陽氏との出会いから今の自分が見いだされたことなどを時折、講談の一節をちりばめながらの語りとなった。会場を埋め尽くした参加者全員が1時間30分という時間が本当に短く感じさせるほどおもしろおかしく、聴取を引きつける講演であった。

【分科会】

大会2日目は、市内の2



校(旭川東高校・旭川商業高校)に25〜30名で41の分科会を設定し、地域・学校が異なる単P会員たちの活発な話し合いが行われた。主なテーマを拾ってみると、「進路支援とPTA活動との連携」「地域コミュニケーションPTA」「親の思いと子の思い」「親子の絆を深めるためのPTA活動」等々。時間を忘れての真剣な情報交換は、大変売りの多いものとなり、保護者や先生方のPTA活動や子供たちに寄せる熱い思いを感じる貴重な機会となった。

以上、2日間の大会を通して、会員相互が本音で語り合えた、思い出に残る有意義な交流となった。

平成24年度
北海道高等学校PTA連合
連合会総会報告

- 1 日時 平成24年6月15日（金）
10:00～12:00
- 2 場所 旭川グランホテル3階
彩雲の間
- 3 資格確認 代議員の出席が38名。
欠席23名。欠席者全員が委任状
を提出しており、道高P連会則
第15条第2項、第3項により、
本総会は成立。
- 4 会長挨拶 道高P連「榊原 綾
子」会長挨拶
- 5 来賓挨拶 全国高P連「相川
順子」会長挨拶
- 6 議長選出・議事録署名人名指
名
(1) 議長「滝川 岳雪」代議員
(旭川農業高校PTA会長)
(2) 議事録署名人「伊藤 真司」
代議員（釧路湖陵高校PTA
会長）
(3) 「西村 耕司」代議員（滝川
高校校長）
(4) 記録者「齊藤 宏宣」教諭
(旭川大学高校）
(5) 「中川 恵」教諭（旭川
大学高校）
- 7 議 事
(1) 第1号議案 「平成23年度事
業報告」
宮川事務局長より、事業報
告（会務報告・事業概要）に
ついて資料を基に説明。質問
等はなく、承認される。
(2) 第2号議案 「平成23年度収
支決算報告」
一般会計決算報告、各特別
会計決算報告（退職金積立金・
災害補償制度・高校生総合保
障制度・障害児舞金等事業・
団体助成事業費・高校生健全
育成事業・賠償責任補償制度）
について、小野次長より資料
を基に説明。特に質問はなく
原案通り承認される。
(3) 第3号議案 「平成23年度会
計監査報告」
佐藤真弓美監事より、「会
則第10条第1項第4号の規定
に基づき監査したが、適正に

執行されている」旨の報告が
あり、特に質問はなく承認さ
れる。

(4) 第4号議案 「第61回全国高
等学校PTA連合会大会北海
道大会収支決算報告」
小野次長より資料を基に説
明。

(5) 第5号議案 「第61回全国高
等学校PTA連合会大会北海
道大会収支監査報告」
佐藤真弓美監事より「適正
に執行されている」旨の報告
があり、特に質問はなく第4
号議案、第5号議案ともに承
認される。

(6) 第6号議案 「平成24年度役
員改選（案）」
金澤達也選考委員長から、
第3回道高P連理事会の承認
を経た下記8名の役員候補の
推薦があり、了承される。

会 長 中 島 圭
(石狩・新・石狩翔陽高校
副会長 山 本 富 造
(石狩・再・札幌新川高校
村 上 義 人
(胆振・新・苫小牧西高校
野 村 光 孝
(石狩・新・札幌南高校
山 本 伸 弘
(石狩・新・札幌月寒高校
監事 長谷部 直 樹
(石狩・再・札幌篠路高校
大 貫 司
(石狩・新・恵庭南高校
池 本 章
(石狩・新・札幌東陵高校
第7号議案 「平成24年度事
業計画（案）」
宮川事務局長が、研修事業、
表彰事業、高校教育振興対策
事業、調査・啓発活動事業、
広報活動事業、健康安全対策
事業等事業内容、並びに加入
状況など組織の概要等につい
て説明し、承認される。

(8) 第8号議案 「平成24年度収
支予算（案）」
一般会計予算案、各特別会
計予算案（退職金積立金・災
害補償制度・高校生総合保障

制度・障害児舞金等事業・団
体助成事業費・高校生健全育
成事業・賠償責任補償制度）
について、小野次長より説明
があり、特に質問はなく原案
通り承認される。

(9) 第9号議案 「平成25年度総
会・第63回全道大会（案）」
ア 開催支部 釧路・根室支部
イ 主管校 北海道釧路商業
高等学校
ウ 日時 平成25年6月14
日（金）～15日（土）
宮川事務局長より説明し、
了承される。

(10) 第10号議案 「平成26年度総
会・第64回全道大会（案）」
宮川事務局長より説明し、
了承される。

(11) 第11号議案 「その他」
特になし

議長退任
旧役員挨拶、新役員紹介・挨拶
神原会長・松本副会長・辻副
会長・佐藤監事より退任挨拶。
新役員を代表して中島圭会長
より挨拶。続いて各自が役職
名・名前等の自己紹介。

平成24年度
第1回理事会報告

日時 平成24年7月29日（日）
12:40～14:40
全日空ホテル3階 祥雲の間
出席者 中島 圭・村上 義人・
山本 伸弘・長谷部 直樹・
大貫 司・白鳥 孝夫・
田原 佳子・中島 茂則・
小室 一征・蜂谷 規彦・
橋本 るみ子・国沢 悟・
金澤 達也・小林 孝幸・
大村 学・佐々木 敏則・
武田 修一・片岡 辰三・
中村 雅一・渡邊 政美・
高井 雅一・滝田 進・
青陽 哲也・阿部 公明・牙
ブザーバー・宮川 恒美・
小野 修志（事務局）
記録者 白鳥 孝夫

会議次第
会長挨拶 中島 圭 会長
理事成立宣言 宮川 恒美 事務局長
自己紹介 役員、監事、理事、事
務局自己紹介
議長選任 北見支部 金澤 達也
（事務局が理事に依頼）
記録者選任 札幌支部 白鳥 孝
夫（常任理事、監事等
を除く名簿順輪番）
議事録署名人 長谷部監事・大貫監
事（監事とするが、不
在の場合は理事）

1 報告事項
(1) 平成24年度北海道高等学校PTA
連合会加入状況について
資料に基づき説明のとおり、
道南1校・後志2校が閉校。
組織改革等検討特別委員会に
ついて
村上委員長より資料に基づき、
目的・事業・構成メンバー等
を説明。
事業の例として、会則は事務
所の所在地を「札幌市に置く」
と改めれば、事務局の移転毎
に変更の必要がなくなる。細
則は道準拠を要する。
平成24年度道高P連支部事務
局校一覧について
資料一覧の通り
平成24年度道高P連総会・全
道大会（旭川・留萌大会）の
終了報告について
資料に基づき説明のとおり。
「高校生と語るつどい」（留萌
支部・十勝支部）について
資料に基づき説明のとおり
出席者・留萌・中島会長・
十勝・宮川局長
平成24年度全国高P連第1回
総会・各種常置委員会・「東
日本大震災義援金収支」等、
全国高P連について
資料に基づき説明のとおり
第62回全国高P連大会「和歌
山大会」について
ア 広報誌の全国展示について
（広尾高校・北見緑陵高校）

イ 全国大会参加報告（高P連
だより）について（担当…
空知支部 芦別高校）
ウ 北海道からの参加状況（7
月29日現在）
ア 参加者 297名（役員・
受賞者・事務局等7名を
含む）
イ 第1分科会（札幌あすか
ぜ高校の発表分科会）出
席者 161名
ウ 北海道懇親会への出席人
数 183名（役員等を
含む）
エ 表彰について
役員等表彰について
個人・松本衆司全国専務
理事（道高P連副会長）
個人・榊原綾子 全国理
事（道高P連会長）
特別感謝状受賞団体 北
海道高等学校PTA連合
会（代表・中島会長）
特別感謝状受賞者 榊原
綾子（北海道大会実行委
員長）
道教委との連携について
7月25日道教育長宛「会長名
で要請書を提出。これは、道
高P連及び各単Pにおける団
体会計の使い方についてであ
る。他県で不適切な支出があ
り、文科から都道府県教委に
通知があったが、北海道はこ
れらに該当せず適正に執行さ
れている。北海道はこれまで
通り、公的に賄わないのであ
れば支援を続ける」との趣旨を
伝えてきた事を中島会長が説
明した。内容の概略は次の通
り。
「高等学校における教育環境
水準の維持についての要望
書」と題し3点を示す。
1. 部活動の参加に係る教
員の引率旅費の確保
2. 生徒の教育水準を高める
教員研修会旅費の確保
3. 本道の高校教育の向上
を図る校長会等の研修
旅費の充実
これについては、各単P

と保護者が連携を密にして、
会計の内容がわかるように、
相互牽制・内部牽制を取り
組み透明性を高めて欲しい。
また、保護者負担の軽減を
計りながら有効に支援を進
めて欲しいと、出席者に重
ねてお願いした。
北海道PTA連合会、札幌市PTA
協議会との連携について
中島会長から、資料に基づき
この協議会の必要性と、道高
P連が幹事となる第1回目が行
われた事を説明。
教育関係団体との連携につ
いて（就職支援・薬物・ネット
トラブル等）
資料に基づき説明のとおり。
その他 特になし。

2 協議事項
(1) 平成24年度道高P連顧問につ
いて
会長より、高岡顧問は協議会
との連携のため1年限りでお
願いし、榊原顧問は現会長在
任中とする。その後はどこ
でん方式で顧問職を置く事を
説明。
質問者 長谷部監事
質問 顧問の役員増員に
よって経費増加となる
のは好ましくない。あ
くまでも会長の相談相
手という事なのか、理
事会・総会等に出席す
るのか？
回答者 中島会長
回答 基本的に必要に応じ
てと考えているので、
現時点では理事会等の
出席は考えていない。
よって経費はほとんど
発生しない。
(2) 「高P連だより」の編集発行」
と「H.Pの更新管理」等の適切
な対応方法の検討」を目的と
した特別委員会（仮称・広報
特別委員会）の設置について
会長から、今まで高P連だよ
りの編集のみ行ってきた編集
委員会に、①広報紙の内容の

と保護者が連携を密にして、
会計の内容がわかるように、
相互牽制・内部牽制を取り
組み透明性を高めて欲しい。
また、保護者負担の軽減を
計りながら有効に支援を進
めて欲しいと、出席者に重
ねてお願いした。
北海道PTA連合会、札幌市PTA
協議会との連携について
中島会長から、資料に基づき
この協議会の必要性と、道高
P連が幹事となる第1回目が行
われた事を説明。
教育関係団体との連携につ
いて（就職支援・薬物・ネット
トラブル等）
資料に基づき説明のとおり。
その他 特になし。

と保護者が連携を密にして、
会計の内容がわかるように、
相互牽制・内部牽制を取り
組み透明性を高めて欲しい。
また、保護者負担の軽減を
計りながら有効に支援を進
めて欲しいと、出席者に重
ねてお願いした。
北海道PTA連合会、札幌市PTA
協議会との連携について
中島会長から、資料に基づき
この協議会の必要性と、道高
P連が幹事となる第1回目が行
われた事を説明。
教育関係団体との連携につ
いて（就職支援・薬物・ネット
トラブル等）
資料に基づき説明のとおり。
その他 特になし。

- (3) 精査②HPによるリアルタイムの情報提供の2点にも検討してもらおう説明があり、承認された。
- (4) 平成24年度道高P連役員・理事・委員会委員長等について資料に基づき説明の通り承認された。
- ・報告事項
村土委員長より資料に基づき説明。①経費の削減、②PDFデータ等により容量の大きなデータ容易に送れるようになった。以上のことから、道高P連からの文書・情報の通信にEメールを使用したい。単Pにアンケートを実施したい。
- 質問者 大村理事
質問 Eメールは各単Pすべてを把握したいのか？
- 回答者 村土委員長
回答 全単P・全支部長に調査したい。
- 質問者 大村理事
質問 その調査は支部で取りまとめるのか？
- 回答者 村土委員長
回答 全て事務局で調査するが、このような調査がある事を支部長から支部の単Pへ伝えて欲しい。
- ・審議事項
①道高P連施行細則第16条の変更について
・村土委員長より資料に基づき説明され、承認される。
- ②道高P連施行細則第36条の変更について
・村土委員長より資料に基づき説明。
- 提案者 長谷部監事
提案 本会はPTA会長連合会ではなく、北海道PTA連合会なので、校長・単P会長だけでなく、単P保護者にも適用すべきでないか？
- 意見者 皆さんの意見もお聞きしたい。
- 回答者 村土委員長
回答 意見としてわかるが、道高P連は単位PTAが会員である。規約では北海道高P連会員は各支部を組織している者であるので、単位PTAということになる。
- 回答者 中島会長
回答 単位PTA会員と道高P連会員では会則上範囲が違ふ。高間顧問、松本前全国専務理事、他県連等にも聞いてみたが、この種の議論では単位PTA会員と、この組織の会員とは異なることを理解しなければ話は進まない。気持的には長谷部監事の意見は理解できるが、単位PTAまでとなると、財政的に増えるので、本会の会員までとしたい。
- 意見者 長谷部監事
意見 条文上の解釈はわかるが、弔意を示すのは誰かと考えると、ここに居るメンバーではなく、各単位PTAの保護者から集めた200円で他校のPTA会長に香典等を贈ることが弔意を示すことになるのか疑問である。ここで敢えて規約を改正してまで支出することは不用と思う。皆さんで考えてもらえば結構です。
- 意見者 白鳥理事
意見 私気持ちには長谷部監事の言う様にしたいが、経費面でもまた、全道272校からの情報を収集するという実務面から見ても難しいので提案通りでいいです。
- 意見者 佐々木理事
- (5) 意見 長谷部氏の考えは正當だが、全会員になると予算も膨大になるので、提案内容は不条理ではないと思うので賛成する。
- 意見者 大村理事
意見 現規程は「特別の場合を除き」と玉虫色になつているのは残念。「行わない」とあるのを行つているのは好ましくないのでは、長谷部氏の意見は理解するが、明文化に賛成。
- 以上のように審議され、拍手で承認された。
- 平成24年度道高P連事業日程について
ア 理事会開催日程等の変更について
・事務局より、今年度から学校現職者が平日の道高P連等の会議に出席することが不可能となったため、それに配慮し休日開催となる事を説明。また、臨時理事会を11月4・11・18のいずれかで行いたいと説明し、承認された。
- イ 「WYSHヘアレンツ北海道プロジェクト(派遣事業)」について
・中島会長より、(5)アの関連もあり今年度は中断とし、健全育成委員会に今後の方針について検討を依頼し、承認された。
- (6) 平成25年度の「総会・第63回道高P連大会」について
・釧路商業高等学校 阿部敬頭より次のア、エの説明があり承認された。
- ア 担当支部……釧路支部・根室支部
イ 主管校……北海道釧路商業高等学校
ウ 日時……6月14日(金)～15日(土)
エ 準備状況……講演者は8月には目途がつきそう。参加料等は変更なし。8月末～
- (7) 9月上旬に運営会議を開催する。
- 各種大会ロケーションについて(事務局から各委員会へ)
ア 平成25年度全国大会からの分科会担当支部について
・事務局より、研修委員会が平成25年度以降の担当支部を決定のこと。
- イ 北海道シンポジウムのロケーションについて
・事務局より、健全育成委員会が今後について検討のこと。
- ウ その他
・事務局より、高P連だより「全国大会参加報告」のロケーションを平成25～27年度位まで決めて欲しい。「高校生と語るつどい」はどうするか。宿泊場所はホテル等での検討をして欲しい。輪番を決める場合、一支部、一学校に集中しないか配慮して欲しい。
- (8) 提案の通り承認。
・災害補償制度等について
ア 災害補償制度運営委員会について
・事務局より、今年度は有識者は選任せず資料の通り提案し、承認された。説明会をどのような目的で、どのように行か等を検討する。
- イ 加入状況について
・事務局より、資料に基づき説明。
- ウ 災害補償制度加入校増に向けての説明会等の在り方について
・事務局より、総務委員会が検討して意見をまとめて頂きたい。
- (9) その他
・事務局より、各議事録については一度は必ず担当となるので、この例を参考に作成してください。
- 議長退任挨拶
北見支部長 金澤達也理事 挨拶
閉会

北海道高等学校PTA連合会は、
高校生のための「災害補償制度」を
主催しています。

参加校 146校
生徒数 57,155人

多くの学校の参加を
期待しております。

私にジャストフィットする保険を選ぶなら
いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもびったりな「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。



新会長ごあいさつ

就任のご挨拶



北海道高等学校PTA連合会
会長 中島 圭

道高P連だより125号の発行にあたり皆様にご挨拶申し上げます。

本年6月に開催されました平成24年度北海道高等学校PTA連合会総会におきまして、皆様のご承認を賜り会長を拝命致しました、中島でございます。不慣れな点が多々有ろうかと思いますが、1年間宜しくお願い致します。

また昨年開催を致しました、全国高等学校PTA連合会大会北海道大会に際しましては、全道各地の皆様にご協力を戴き、大成功のうちに終了することができました。これも単に皆様のご支援のお陰と考えております。重ねて御礼申し上げます。

さて、今年度北海道高等学校PTA連合会は、榊原前会長よりバトンを受けて、新体制でのスタートを切りました。子供たちを取り巻く教育環境は依然として厳しく、時には難しい選択をしなくてはならない場面もあるかもしれません。昨今の急速な少子化傾向は、学校数の減少や、PTA会員の減少といった組織運営にも影響を及ぼしかねない問題となっております。私は、北海道のPTA組織が今日まで担ってきた役割は、対象こそ違いますが、子供たちの成長や学校の運営に直接影響を与えるほど非常に重要なものであり、継続性の高い社会的責務であると考えております。そのためにも保護者と先生が、今後とも互いに手を取り理解を深めて、次代を担う子供達へ安定した支援を行う必要があると考えています。そのためには、子供達の応援団として、また会員の皆様の応援団として活力ある組織の運営を進める所存であります。今後も引き続き全国高P連や関係諸団体との連携を保ちながら、会員である各支部所属の単位PTA支援に向けて全力で取り組みますので、北海道高等学校PTA連合会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成24年度 北海道高等学校PTA連合会事業日程

平成24年7月29日現在

| 月 | 日 | 曜 | 氏 名 (校名) |
|----|------------------|---|------------------------------------|
| 4 | 初 | 〃 | 道高P連理事の依頼 |
| | 〃 | 〃 | 支部役員報告期日通知 (道高P連→支部長校) |
| | 〃 | 〃 | 表彰者報告期日通知 (道高P連→全単P、道高P連→支部長校) |
| | 〃 | 〃 | 第62回道高P連大会 (旭川・留萌大会) 案内 (旭川支部から) |
| 11 | 水 | 〃 | 第1回会長、副会長、事務局会議 |
| 23 | 火 | 〃 | 平成23年度道高P連決算監査 |
| 24 | 月 | 〃 | 第1回支部事務局長会議 |
| 27 | 金 | 〃 | 第62回道高P連大会 (旭川・留萌大会) 参加申込締切 |
| 5 | 7 | 月 | 第62回全国高P連和歌山大会・各単P案内 |
| | 11 | 金 | 功績者表彰申請締切 (単P→支部長校→道高P連) |
| | 16 | 水 | 第2回会長、副会長、事務局会議 |
| | 17 | 木 | 平成23年度道高P連第3回常任理事会 |
| 〃 | 〃 | 〃 | ・第3回理事会・役員選考委員会・表彰選考委員会・各委員会等 |
| 23 | 水 | 〃 | 支部役員・代議員報告締切 (支部長校→道高P連) |
| 6 | 6 | 水 | 第62回全国高P連和歌山大会参加申込締切 |
| | 14 | 木 | 道高P連第4回常任理事会 |
| | 15 | 金 | 道高P連「総会」・第62回道高P連大会 (旭川・留萌大会) 第1日目 |
| | 16 | 土 | 第62回道高P連大会 (旭川・留萌大会) 第2日目 |
| 23 | 土 | 〃 | 全国高P連・第1回総会・理事会・総務委員会 |
| 24 | 日 | 〃 | 全国高P連・第1回各種常置委員会 |
| 7 | 29 | 日 | 平成24年度道高P連第1回常任理事会・理事会・各委員会等 |
| 8 | 4 | 土 | 高校生と語るついで第1日目 (留萌支部) |
| | 5 | 日 | 〃 第2日目 (〃) |
| | 6 | 月 | 高校生と語るついで第1日目 (十勝支部) |
| | 7 | 火 | 〃 第2日目 (〃) |
| 22 | 水 | 〃 | 第62回全国高P連大会和歌山大会運営会議・事務局長会議他 |
| 23 | 木 | 〃 | 第62回全国高P連大会・和歌山大会第1日目 |
| 24 | 金 | 〃 | 〃 第2日目 |
| 9 | 下 | 〃 | 災害補償制度運営委員会 (土日で検討) |
| | 10 | 月 | 道高P連だより125号発行 |
| | 22 | 土 | 全国高P連第2回各種常置委員会・第2回総務委員会 |
| | 〃 | 〃 | 〃 第3回理事会 |
| 23 | 日 | 〃 | 〃 第1回全国会長・事務局長研修会 |
| 12 | 金 | 〃 | 北海道シンポジウム (十勝支部) |
| 10 | 中 | 下 | 災害補償制度運営委員会 (土日で検討) |
| | 〃 | 〃 | 道高P連災害補償制度説明会 (災害補償制度運営委員会で検討) |
| | 〃 | 〃 | 臨時理事会 (特別委員会からの議題がある場合・4/11/18日) |
| | 〃 | 〃 | 第2回支部事務局長会議 (土日で検討) |
| 11 | 中 | 下 | 道高P連災害補償制度説明会 (災害補償制度運営委員会で検討) |
| 12 | 中 | 〃 | 道高P連だより126号発行 |
| 1 | 土 | 〃 | 全国高P連第2回全国会長・事務局長研修会 |
| 2 | 日 | 〃 | 〃 第3回各種常置委員会・第3回総務委員会・第4回理事会 |
| 10 | 土 | 〃 | 平成24年度道高P連第2回常任理事会・理事会・各委員会等 |
| 3 | 中 | 〃 | 高P連だより127号発行 |
| 備考 | ・各支部総会 (5/7～6/8) | | |

平成24年度 北海道高等学校PTA連合会役員・理事・委員等名簿

平成24年7月29日現在

| No. | 役 職 | 所属等 | 氏 名 | 学校名 | 所属委員会 | 備 考 |
|--------|-----|----------|---------------------------|--------|-------|----------------------|
| 1 | 会長 | 石狩 | 中島 圭 | 石狩翔陽 | — | 全国：理事・研修委員 ★ |
| 2 | 副会長 | 石狩 | 山本 富造 | 札幌新川 | 健全育成 | 全国：進路対策副委員長 ★ |
| 3 | 〃 | 胆振 | 村上 義人 | 苫小牧西 | 総務 | 全国：監事 ★ |
| 4 | 〃 | 石狩 | 野村 光孝 | 札幌南 | 研修 | 全国：健全育成委員 ★ |
| 5 | 〃 | 校長協会 | 山本 伸弘 | 札幌月寒 | 総務 | 北海道高等学校校長協会会長 ★ |
| 6 | 監事 | 石狩 | 長谷部直樹 | 札幌篠路 | 研修 | 全国：調査広報委員 |
| 7 | 〃 | 石狩 | 大貫 司 | 恵庭南 | 総務 | |
| 8 | 〃 | 石狩 | 池本 章 | 札幌東陵 | 健全育成 | |
| 9 | 理事 | 石狩 | 原 貴彦 | 札幌あすかぜ | 健全育成 | |
| 10 | 〃 | 石狩 | 白鳥 孝夫 | 札幌東商 | 研修 | |
| 11 | 〃 | 道南 | 田原智佳子 | 函館水産 | 総務 | 総務委員長 ★ |
| 12 | 〃 | 後志 | 中島 茂則 | 小樽工業 | 研修 | |
| 13 | 〃 | 空知 | 小室 一征 | 芦別 | 研修 | |
| 14 | 〃 | 旭川 | 蜂谷 規彦 | 旭川南 | 研修 | 研修委員長 ★ |
| 15 | 〃 | 留萌 | 橋本るみ子 | 留萌 | 研修 | |
| 16 | 〃 | 名寄 | 国沢 悟 | 名寄 | 総務 | |
| 17 | 〃 | 北見 | 釜澤 達也 | 北見柏陽 | 健全育成 | |
| 18 | 〃 | 十勝 | 小林 孝幸 | 帯広工業 | 健全育成 | |
| 19 | 〃 | 釧路 | 鈴木 敏夫 | 釧路商業 | 総務 | |
| 20 | 〃 | 根室 | 大村 学 | 中標津 | 健全育成 | 健全育成委員長 ★ |
| 21 | 〃 | 胆振 | 佐々木敏則 | 室蘭東翔 | 研修 | |
| 22 | 〃 | 日高 | 武田 修一 | 静内 | 研修 | |
| 23 | 〃 | 校長協会 | 片岡 辰三 | 札幌西 | 総務 | 校長協会指名理事 (校長協会筆頭副会長) |
| 24 | 〃 | 〃 | 中村 至 | 文教大明清 | 健全育成 | 〃 (校長協会・私学・理事) |
| 25 | 〃 | 〃 | 馬場 保孝 | 石狩翔陽 | 研修 | 〃 (道高P連会長校) |
| 26 | 〃 | 〃 | 渡邊 政美 | 岩見沢東 | 健全育成 | 〃 (校長協会空知支部長) |
| 27 | 〃 | 〃 | 高井 雅一 | 札幌あすかぜ | 研修 | 〃 (道高P連石狩支部長校) |
| 28 | 〃 | 〃 | 滝田 進 | 札幌東商 | 健全育成 | 〃 (道高P連次期石狩支部長校) |
| 29 | 〃 | 〃 | 富田 敏明 | 恵庭北 | 総務 | 〃 (校長協会事務局長) |
| 30 | 〃 | 教頭会 | 丸木 克朗 | 札幌北 | 健全育成 | 教頭・副校長会会長 ★ |
| 31 | 〃 | 事務長会 | 青陽 哲也 | 札幌東商 | 総務 | 公立学校事務長会会長 ★ |
| 32 | 〃 | 養教研会 | 大村 道子 | 札幌東 | 総務 | 養護教諭研究会副会長 |
| オブザーバー | | 次期開催事務局長 | 阿部 公明 | 釧路商業 | 研修 | 釧路商業教頭 (釧路支部事務局長) |
| 顧 問 | | 高間 専逸 | 前全国高P連会長・元北海道高等学校PTA連合会会長 | | | |
| | | 榊原 綾子 | 前全国高P連理事・前北海道高等学校PTA連合会会長 | | | |

★ …… 常任理事

●組織改革等検討特別委員会

委員長 村上 義人 (副会長)
副委員長 原 貴彦 (石狩支部長)
委員 松本 栄司 (前全国高P連専務理事)
委員 田北百樹子 (社会保険労務士)
委員 宮川 恒美 (事務局長)
委員 小野 修志 (事務局次長)

■広報特別委員会

委員長 山本 富造 (副会長)
副委員長 菅野 友香 (札幌情P会長)
大沼美枝子 (札幌北P副会長)
前村 啓子 (札幌工P会長)
西村 真理 (札幌南P副会長)

※事務局

宮川 恒美 (事務局長)
小野 修志 (次長)
廣瀬 善脩 (局員)
松山 淳子 (局員)
小田島美香 (局員)

支部だより

寄部
名支

自然と星と子どもたちと

北海道高等学校PTA連合会

名寄支部長

国 沢

悟

(北海道名寄高等学校PTA会長)

名寄支部は、現在17校、生徒数3,129名を有し、南は剣淵町から北は稚内市まで、南北に伸びる広大な支部です。

平成22、23年度は稚内大谷高校が事務局をつとめ、平成23年度に稚内市において開催した「高校生と語るつどい」は、稚内市が推進する持続可能な自然エネルギー(太陽光、風力、バイオマスなど)の施設見学やソーラーカーづくりの実習見学、高校生と保護者、教員、併せて70名による「明日のエネルギ」についてのディスカッションなど、大変有意義な研修となりました。現代の高校生の柔軟な発想に基づく数々のアイデアに、参加者からは大きな賞賛の声が上がっていました。保護者の一人として、次代を担う若者たちの勇ましさをうかがい、垣間見られたのが何よりも嬉しかったです。そして、こ



のつどいに参加した道北の高校生のなかから、エネルギ開発の研究者やエネルギを取り巻く経済問題に果敢に立ち向かう青年がきつと現れるものと信じます。本事業の企画・運営に携わってこられた稚内大谷高校の保護者の皆さん、先生方、そして、近隣地区の大勢の関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

さて、本年度、事務局校の任を受け継ぎましたが、私も名寄高校PTAです。PTA名寄支部総会では、本年6月8日、道高P連の榊原綾子会長をご来賓にお迎えして開催しました。冒頭、榊原会長から、前年度に開催した全国高等学校PTA連合会(札幌大会)総会のお礼や前述の「高校生と語るつどい」のお礼、道高P連の活動状況と今後の動きなどを含め、大変丁寧なご挨拶を頂戴しました。

総会に続く研修会では、なよろ市立天文台「きたすばる」の佐野康男氏にご講演をいただき、佐野氏が自ら発見された複数の超新星やひとつの極超新星(大発見なのだそうです!)の画像紹介とともに、かつて名寄高校で教鞭を執られた故木原先生(きたすばるの前身「木原天文台」の創設者)

との師弟関係のエピソードなど、素人の私にも大変わかりやすいご説明があり、会場は幾度も和やかな笑いに包まれました。道北の小さな街名寄に天文学を研究する著名な学者がフランスやアメリカ等から始終訪れているという事実が地元の人間も驚かされました。

国内第2の大きさを誇る天文台のある街、天体観測の街、星と語らう街・・・、この切り口は名寄市の新たな郷土資源として私たちが今後大いに発信していく必要があるのではないかと感じました。これをお読みの全道の高P連の仲間の皆様、是非道北・名寄に足をお運びください。心から歓迎いたします。

豊かな自然に囲まれた北の大地から子どもたちを見てみると、彼らはなんとも美しい澄んだ瞳で社会を真っ直ぐに見ながら育っていることがよくわかります。私は、そんな子どもたちが大好きです。それが、私のPTA活動推進の原動力となっています。そんな子どもたちのさらなる成長のために、今後も道内の多くの方々と連携、協力しながら活動を行っていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

勝部
十支

地域に根ざした活動を目指して

北海道高等学校PTA連合会

十勝支部長

小林 孝 幸

(北海道帯広工業高等学校PTA会長)

当支部は現在、二十四校、二十七車Pが加盟しており、五月十九日(日)の十勝支部総会には、道高P連から榊原会長、宮川事務局長のご臨席をいただき、総勢六十三名で盛会に開催されました。その他、支部の事業としては、支部役員会(年三回)、支部交通安全街頭指導、管内高等学校PTA会長・校長合同研修会などを実施しています。



昨年度開催された、第六十一回全国高等学校PTA連合大会(北海道大会)、地域物産展では、訪れた多

くの方に特産品の試食・販売など十勝の魅力を十分にPRすることができました。また、ばんえい競馬の人気競走馬「リッキー」を来場された皆様に見ていただきました。来場者からは「こんなに大きいとは思っていませんでした。」「たくましいですね」「おとなしくてかわいい」など、すっかり会場の人気者となりました。このような機会を設けていただきまし

た道高P連、ご支援ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。

さらに今年度特別事業といたしまして、道高P連の主催事業「高校生と語るつどい」(八月六日(月)〜七日(火))「北海道シンポジウム」(十月十二日(金))



が行われます。特に北海道シンポジウムについては、全道各地から多くの方に来ていただき、十勝を満喫していただければと思います。現在、準備を進めていますが、案内等につきましては、各地区の支部担当校(事務局)を通じて、ご連絡させていただきます。多くの方の参加を心よりお待ちしております。